

**岩** 波新書『本へのとびら』には、宮崎駿監督が選んだ岩波少年文庫50冊が紹介されています。図書閲覧室では、この50冊の表紙とタイトルを一覧にしたパネルを展示しています。子どもたちが夏休みに読む本を探す姿もあれば、大人の方からは「子どもの時に読んだ、懐かしい」という声もよく聞かれました。海外の方がじっくりご覧になっていることもあります。50冊の中には海外文学の翻訳作品も含まれているので、ご存じのタイトルもあるかと思えます。宮崎監督は「本との出会いは表紙である」と話していますが、一冊ずつ表紙を眺めながら本を手にとられる様子は、まさに出会いの場面そのものでした。

『本へのとびら』では、挿絵の魅力、翻訳の言葉の力、本にまつわる思い出など、50冊それぞれについて文章が綴られています。『星の王子さま』『バラとゆびわ』『チポリーノの冒険』といった懐かしい作品に出会える一方で、「こんな本もあったのか」と新たな発見があるかもしれません。本選びの一冊として、ぜひ手に取ってみてください。



季刊トライホークス 2025年 | 80号

発行日……2025年9月2日 | 発行人……中島清文

発行所……徳間記念アニメーション文化財団

東京都三鷹市下連雀1-1-83 三鷹の森ジブリ美術館

編集……石光紀子 小泉奈里子 | デザイン……川島弘世

印刷……TOPPANクロレ株式会社 | 非売品

## 本棚より

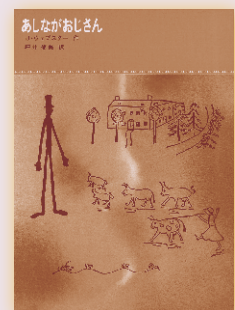
トライホークスに置かれているおすすめの本を紹介していきます。  
トライホークスの本棚の中の一冊から、みなさんの本棚の一冊にしていただけたら嬉しいです。

### あしながおじさん

**ク** リスマスの時期に『クリスマス・キャロル』を読み返しているという友人の真似をして、冬が始まる頃に『あしながおじさん』を手にとるようにになりました。子どもの頃は何度も読んでいましたが、大人になってからは本棚の一角に置いたままになっていた本です。久しぶりにページを開いてみると思いのほか楽しく、最後まで読み通せなくても気にしない、そんなゆるい感じの読み返しが数年続いています。

『あしながおじさん』はアメリカの作家ジーン・ウェブスターが1912年に発表した小説です。孤児院で育った少女ジュディは、毎月手紙を書くことを条件に奨学金を受け、大学へ進学します。名前を明かさないその援助者を「あしながおじさん」と呼び、大学生活を手紙に綴っていくのです。孤児院の外の生活はジュディにとって初めてのことばかり。自分のお金で買い物をすること、本を読むひとりの時間を持つことも全てが新鮮です。彼女の手紙には、嬉しいことも悲しいことも、驚きも不安も飾らずに書かれていて、身寄りがなく、ひとりぼっちで寂しくなる時があっても、ユーモアを失わず人生を切り開いていこうとする、そんなジュディの前向きさに元気づけられる物語です。

一年に一度、あえて同じ本を手にとる特別な時間は、日常の慌ただしさをそっと遮ってくれます。そして、魅力的なジュディにまた会えることも、大きな楽しみになっています。これからも変わらずに読み続けたい一冊です。



あしながおじさん

作…ジーン・ウェブスター

訳…坪井郁美

福音館書店 1,870円

# 千葉茂樹

Shigeki Chiba

## 夢中になって読んだ本

本を紹介していただいたのは翻訳家の千葉茂樹さんです。『雪の写真家ベントレー』（BL出版）『ウエズレーの国』『エンデュアランス号大漂流』（あすなろ書房）『ボグ・チャイルド』（ゴ布林書房）など、気づけば千葉さんの訳された本をたくさん読んできました。千葉さんが夢中になって読んできた本も海外作品が多かったそうです。今回はその一端をご紹介します。

\* \* \* \* \*

**わ** たしが本を夢中で読むようになったのは、ちょっとあやふやながら多分小学2年生の冬、クリスマス・プレゼントとして、父が子ども向けの世界文学全集20巻をどさっとまとめて買ってきた時からでした（その全集、どの出版社のものなのかも、正確なシリーズタイトルも、調べても未だわかりません。もしかして幻?!）。自称元文学青年の父としては、子どもにも本を好きになってほしいという思いがあったのでしょう。

一方、母はといえば、本にはまるで興味を持っていなかったようで、本に対する思い入れがないせいか、先に述べた全集をふくめ、子ども時代のわたしの蔵書は、なんの断りもないまま、全ていつのまにか廃棄されてしまいました。

恨み言はさておき、その父から贈られた全集、本当に夢中になって、それぞれ何度読み返したかわからないほどです。なかでも『トム・ソーヤーの冒険』『十五少年漂流記』『オズの魔法使い』『魔法のつえ』『点子ちゃんとアントン』なんかが好きだったなあ。その全集に『ルパン対ホームズ』が入っていたことから、ルパン、ホームズにも関心を持つようになり、ミステリーものを学校図書館で次々と読むようにもなりました。

なかでもルパンには心酔して、全20巻のルパン全集をこづかいやお年玉で一冊ずつ買い、ついにはコンプリート！ この全集、同じポプラ社版ながら、当時いちばん流布していた南洋一郎訳のものではなく、池田宣政訳の白っぽいおしゃれな

装丁の箱入り、二段組のもの。南洋一郎と池田宣政が同一人物だと知るのは大人になってからのことです。

あのルパンを読んでいた時ほど、どっぷり本の世界に浸りきった経験は、その後、ないような気がします。ご飯だよと声をかけられても聞こえず、時間も忘れて夜中まで読みふける……。まさに寝食を忘れるというやつですね。現実の世界から完全に離脱して、本の中で、ルパンと一緒にめくるめく冒険をなしとげるあの感覚。

この全集も母に捨てられたのですが、何としてももう一度読みたいという一念で、大卒後、就職した出版社が神田神保町にあったことを幸い、古書店で一冊見つけるたびに買い集め、ついには全巻揃えるに至ったのでした（みわ書房さん、ありがとう!）。

動物文学も大好きでした。実業之日本社から出ていた、分厚いことを売り物にした『シートン動物記』と、いろいろな作家のアンソロジー『スカンク戦争』（どちらも厚さが辞書ほどもある500ページ前後のもの）も、くりかえし読んだものです。のちにシートンの『オオカミ王ロボ』を自分の手で翻訳することになるのでですから感無量。

動物文学や推理小説、学校図書館で読み漁ったもうひとつのジャンルSFは、いうまでもなくエンターテインメントですが、子ども向きに抄訳された世界文学もまた、エンターテインメントだと思います。究極の。元々プロットは骨太で、様々

なエピソードから印象的な部分を選び抜いて、息もつかせぬ勢いのまま、短い枚数で最初から最後までつっ走るのですから。そうした作品にどっぷりつかって日々を過ごせた子ども時代を持てたことは、とても幸せだったと、しみじみ思います。

ところで、わたしが子ども時代を過ごした1960年代から70年代前半にかけては、日本の創作児童文学の黄金期といってもいい時期でした。以下敬称略で恐縮ですが、松谷みよ子、山中恒、いぬいとみこ、神沢利子、佐藤さとる、寺村輝夫などなど、錚々たる顔ぶれの方たちが次々と新作を出版していたのです。ところが、当時わたしは日本の創作児童文学にはまったく手をのばしていません。あまり大きな声ではいえませんが、今あげたような方々の作品を読んだのは、児童書出版社に入ってからのもので、子ども時代に読んでいたらきっと夢中になっただろうと、ちょっと残念な気がしたものです。

さらにミステリーでも、ルパン、ホームズは読んでも江戸川乱歩の少年探偵シリーズは一作も読んでいません。動物文学もしかりで、棕鳩十や戸川幸夫には手を出さずじまい。

わたしが翻訳者として海外の本を紹介する立場にいる現状の芽びきは、早くも当時からしっかり

あったのです！ といえ、何となくそれっぽい逸話に聞こえなくもないのですが、そんなことはぜんぜんなかったと思います。きっと、ただ、表紙の絵の好き嫌いとか、現実世界と離れたものを求めたために、書いた人が自分と同じような漢字の名前を持った人なのが気に食わない、とか、そういう低レベルの判断でしかなかったのではと思います。その後、中学高校時代には、またぜんぜん違った読書傾向になるのですが、それはまた別のおはなし。

### ちばしげき

1959年北海道生まれ。国際基督教大学卒業後、児童書出版社を経て翻訳者に。訳書に『ハックルベリー・フィンの冒険』『カランポーのオオカミ王』（以上岩波書店）、『オオカミ王ロボ』（学研）、『名探偵ホームズ踊る人形』（理論社）、『ウエズレーの国』『ぼくとロボ型フレンド』（以上あすなろ書房）、『ぼくの鳥』（静山社）など多数。

### トライ ホークス の本

### シャクルトン の大漂流

作…ウィリアム・グリル  
訳…千葉茂樹  
岩波書店 2,750円



## 夢中になって読んだ本

- ◆ 世界文学全集20巻より
  - ◇ トム・ソーヤーの冒険
  - ◇ 十五少年漂流記
  - ◇ オズの魔法使い
  - ◇ 魔法のつえ
  - ◇ 点子ちゃんとアントン
  - ◇ ルパン対ホームズ 出版社は不明
- ◆ アルセーヌ・ルパン全集 全20巻
 

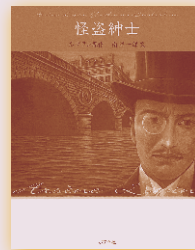
作…モーリス・ルブラン 訳…池田宣政 ポプラ社 絶版
- ◆ シートン動物記
 

作…シートン 訳…白柳美彦 実業之日本社 絶版
- ◆ スカンク戦争
 

選…棕鳩十 実業之日本社 絶版
- ◆ 10歳までに読みたい世界名作⑧  
シートン動物記 オオカミ王ロボ
 

作…E・T・シートン 編訳…千葉茂樹 Gakken 1,210円

千葉さんが選んだ書籍タイトルをもとに、  
現在入手できる本を編集を選びました。



### 怪盗紳士

原作…モーリス・ルブラン  
訳…南洋一郎  
ポプラ社 660円  
◇ 怪盗ルパンシリーズ  
(全20巻)

- ◆ トム・ソーヤーの冒険 上・下
 

作…マーク・トウェイン  
訳…石井桃子  
岩波少年文庫 上814円 下869円
- ◆ 二年間の休暇 上・下
 

作…ジュール・ベルヌ  
訳…朝倉 剛  
福音館文庫 上770円 下715円
- ◆ オズの魔法使い
 

作…ライマン・フランク・ボーム  
訳…佐藤高子  
ハヤカワ文庫 1,012円
- ◆ 点子ちゃんとアントン
 

作…エーリヒ・ケストナー  
訳…池田香代子  
岩波少年文庫 825円

# 本を手にする 道のり

トライホークスのおすすめの本ですが、今では販売が終了してしまい、古本屋さんにて購入する、もしくは図書館で借りることでしか読めなくなってしまった本があります。この機会に興味を持っていただき図書館にぜひ足を運んでみてください。本を読む幸せが得られることと思います。

## 夏の終りに

**物** 語の舞台はイギリス、コーンウォール地方にある「ゴールデングローブ荘」です。主人公の少女マッジは、毎年の夏休みをここに住む祖母のもとで、従妹のポールと一緒に過ごしていました。海で泳いだり、舟に乗せてもらったり、散策に出かけたり……。家を離れて自由に過ごすその時間は、2人にとってかけがえのない楽しいひと時でした。ところが、屋敷の離れに間借りしていた盲目の教授のために、マッジが朗読を申し出たことから、いつもとは違う夏休みに変わっていくのです。

人の助けや善意が物事を良くすると考えているマッジは、朗読や身の回りの世話をすることが盲目の教授の助けになると信じて疑いませんでした。けれどもそれは、教授の生活の小さな支えにはなっても、彼の孤独や置かれた状況を変える力ではありません。マッジは、目の見えない教授を残して家を出て行った妻の話を聞き憤慨しますが、祖母からは「視力を失ったことが別れの理由かどうかわからない。他人の痛みは決してわからないものだ」と諭されます。マッジ自身もまた、離婚した両親の身勝手さに傷つきながら、誰にも、そして自分にもどうすることもできない現実があるのだと気づいていくのでした。

『夏の終りに』は、マッジの子ども時代の終りと精神の成長を描いた作品です。舞台となるゴールデングローブ荘は、作者ジル・ペイトン・ウォルシュの祖母の家がモデルとされており、この屋敷をはじめ、2人が遊んだ小さな浜やゴッドレビイの白い燈台など、現存する風景が詳細に描かれています。季節がめぐり、時が流れ、人が変わっていったとしても、変わらない存在として風景が印象づけられています。物語に大きな事件はなく、マッジ、ポール、祖母の3人の視点で進んでいきます。登場人物の心の内が丁寧に描写されることで、マッジの内面的変化と成長がこれらの情景描写と響き合いながら、読者に深く伝わってくる物語です。



### 夏の終りに

作…ジル・ペイトン・ウォルシュ  
訳…百々佑利子  
岩波書店 品切重版未定

◇ 続編として、  
ゴールデングローブ荘の  
主となったマッジを描いた  
『海鳴りの丘』があります。

## 天からふってきたお金

### 天からふってきたお金

アリス・ケルジー 岡村和子訳



岩波書店

### トルコのホジャの たのしいお話 天からふってきたお金

文…アリス・ケルジー  
訳…岡村和子  
岩波書店 品切重版未定

**ト** ルコでは、ナスレディン・ホジャという知恵者のおじいさんのお話が今も語り継がれています。

ある時「ぴったり1,000クルシュをください。ぴったりでないと受け取りません」と神様に大声でお願いしているホジャを見て、金持ちのディン・ベイさんは、願うだけで働こうとしないホジャに説教しようと、999クルシュだけ入った袋をホジャの目の前に投げ入れてやりました。ところがホジャは「天からふってきたこのお金は神様のくれたものだ」と言って、受け取ってしまいます。ディン・ベイさんが「その金は私のものだ、ぴったりでないと受け取らないと言ったじゃないか」と言っても、ホジャはまったく取り合いません。結局2人は裁判所に行ってお互いの言い分を訴えることとなりますが、ホジャは知恵を働かせ言葉巧みにディン・ベイさんをやりこめてしまいます。

ホジャのお話のおもしろさは、どんなピンチでも機転を利かせて切り抜ける一方で、「明日はこの世の終わりだぞ」と言われればすっかり信じてしまう、そんな憎めない人柄にあると思います。どんな時も人の心をユーモアで和ませるホジャは、今もたくさんの人に親しまれています。